

2019年1月17日

意見提出者：田場 洋和

「みどりの風吹くまちビジョン」の一戦略計画12「みどり豊かで快適な空間を創出する交通インフラの整備」についての意見

○「緑を破壊する“放射35号線延伸部分（通称「タテ3」）”の道路計画」

2018年12月に発表された「みどりの風吹くまちビジョン」（基本計画・戦略計画）では、道路開発計画について、「戦略計画」12として「みどり豊かで快適な空間を創出する交通インフラの整備」の1項目を割いて記述しています。その記述では、「都市計画の整備率が区内で約50%と、23区平均の65%を下回っており、生活道路への車両の流入をまねている」と指摘しています。そして道路整備方針として、今後5年間で区内の整備率約7割を目指して、約14kmの事業着手に向け取り組むとしています。

そうなりますと、私の自宅を貫通する放射35号線延伸部分（通称「タテ3」2.78km）は5年間で工事着手が見込まれる14kmに取り組まれることとなります。この1-2年間で東京都の実務担当者との話し合いでは、計画されている道路の線の修正は（幅も長さも）行わないとしております。つまり、40数年前に計画された計画はそのまま実現するとしているわけです。この「タテ3」は、住宅街の早宮を突っ切り、広徳寺の本堂、禅の修行院をつき壊し、西武線練馬駅と交差し、その高架線下を通じ、豊玉を突っ切り、幹7道路と結ぶこととなります。

「タテ3」道路の大きな問題は、石神井川と広徳寺を結ぶみどり豊かな景観をぶち壊してしまう点にあります。「戦略計画12」では「みどり豊かで快適な空間を創出する」としてありますが、「タテ3」の計画は、「みどりを創出する」どころか、逆に「みどりを破壊する」計画だと言わなければなりません。しかも広徳寺は歴史的な文化遺産であり、そこに道路を貫通させることは、そうした文化そのものを破壊してしまう暴挙だといわざるを得ません。

「タテ3」の整備によって当該地域では600を超える家屋が立ち退きを迫られ、地域コミュニティが破壊されてしまいます。道路整備計画については、周辺地域住民の声、意見に十分耳を傾けていただき、地域住民の生活・暮らしを守るという視点に立って再考していただきたいと思います。国土交通省は最近「道路整備計画の見直し」方針を打ち出し、大阪・愛知などでは「計画」中止にした道路がかなり出たと聞いております。大阪・愛知などでの見直しがなぜなされたのかを精査し、東京でもその教訓を学んでほしいと切に望んでおります。